Title	がん化学療法による皮膚障害のセルフマネジメントに対する自己効力感尺度の開発
Sub Title	Development of a self-efficacy scale for self-management of skin reaction induced by cancer chemotherapy
Author	田村, 紀子(Tamura, Noriko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、がん化学療法による皮膚障害のセルフマネジメントに対する自己効力感を測定するた めの尺度を開発し、臨床における適用を目指して、信頼性、妥当性を検証することを目的として いる。 本研究は、1.尺度原案の作成、2.パイロット調査(30名の対象者に尺度原案を用いた調査を 実施し、仮尺度を作成する)、3.本調査(仮尺度を用いて、約100名の対象者に調査を実施し、 信頼性・妥当性を評価する)の3段階によって構成される。 2018年度は、前年度に引き続き、3.本調査を実施した。パイロット調査の結果を基に作成した 仮尺度、皮膚障害の特異的QOL評価尺度(Skindex29)、不安・うつの評価尺度(HADS日本語版 )、一般性自己効力感尺度を用いて、データ収集を進めた。慶應義塾大学病院の一般・消化器外 科外来、および消化器内科外来、腫瘍センターにおいて、データ収集を継続しており、2018年3月 31日の時点で、計62名の研究対象者より調査の協力を得た。また、尺度の再現性を評価するため 、一部の対象者には再テスト(30名程度)への協力を依頼しており、同時点で20名より協力を得 た。 引き続き、本調査のデータ収集を継続し、目標対象者数100名を目指す。また、データ分析を進め、 尺度を構成する質問項目の洗練、および信頼性・妥当性・再現性の評価を行った上で、臨床へ の適用における課題を明確化していく予定である。 The purpose of this research is development the scale specifically for measuring self-efficacy for self-management of skin reaction induced by cancer chemotherapy. This research consists of three stages; 1.invention the draft of scale, 2.pilot study, and 3.main study. In 2018, the main study has carried out following the last year. I've collected data with the temporary scale by the pilot study, Skindex29; the scale for evaluating QOL of the patients with skin problems, Hospital Anxiety and Depression Scale Japanese version, and General Self- Efficacy Scale at the outpatient department of Keio University Hospital. The 62 patients has been registered by March 31, 2019. The data collection is still continuing aiming to reach 100 patients. Then, I will analyze their data to improve questionnaire, to verify the reliability and validity of a scale for application in a clinical setting.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180363

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2018 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	助教(有期)	- 補助額	100 (C) 千円		
	氏名	田村 紀子	氏名(英語)	Noriko Tamura				
—————————————————————————————————————								
がん化学療法による皮膚障害のセルフマネジメントに対する自己効力感尺度の開発								
研究課題(英訳)								
Development of a Self-efficacy Scale for self-management of skin reaction induced by cancer chemotherapy								
1. 研究成果実績の概要								
本研究は、がん化学療法による皮膚障害のセルフマネジメントに対する自己効力感を測定するための尺度を開発し、臨床における適 用を目指して、信頼性、妥当性を検証することを目的としている。 本研究は、1. 尺度原案の作成、2. パイロット調査(30名の対象者に尺度原案を用いた調査を実施し、仮尺度を作成する)、3. 本調 査(仮尺度を用いて、約100名の対象者に調査を実施し、信頼性・妥当性を評価する)の3段階によって構成される。 2018年度は、前年度に引き続き、3. 本調査を実施した。パイロット調査の結果を基に作成した仮尺度、皮膚障害の特異的 QOL 評 価尺度(Skindex29)、不安・うつの評価尺度(HADS日本語版)、一般性自己効力感尺度を用いて、データ収集を進めた。慶應義塾大学 病院の一般・消化器外科外来、および消化器内科外来、腫瘍センターにおいて、データ収集を継続しており、2018年3月31日の時点 で、計62名の研究対象者より調査の協力を得た。また、尺度の再現性を評価するため、一部の対象者には再テスト(30名程度)への 協力を依頼しており、同時点で20名より協力を得た。 引き続き、本調査のデータ収集を継続し、目標対象者数100名を目指す。また、データ分析を進め、尺度を構成する質問項目の洗 練、および信頼性・妥当性・再現性の評価を行った上で、臨床への適用における課題を明確化していく予定である。								
2.研究成果実績の概要(英訳)								
The purpose of this research is development the scale specifically for measuring self-efficacy for self-management of skin reaction induced by cancer chemotherapy. This research consists of three stages; 1.invention the draft of scale, 2.pilot study, and 3.main study. In 2018, the main study has carried out following the last year. I've collected data with the temporary scale by the pilot study, Skindex29; the scale for evaluating QOL of the patients with skin problems, Hospital Anxiety and Depression Scale Japanese version, and General Self-Efficacy Scale at the outpatient department of Keio University Hospital. The 62 patients has been registered by March 31, 2019. The data collection is still continuing aiming to reach 100 patients. Then, I will analyze their data to improve questionnaire, to verify the reliability and validity of a scale for application in a clinical setting.								
3. 本研究課題に関する発表								
発表者 (著者・	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)		登記4 発表学術誌名 著書発行所・講演学会)	学術誌発 (著書発行年月			